

千年の森便り No.266

2026.3.23

ちば千年の森をつくる会

<http://sfuku.cloudfree.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

3月15日（日）天候 晴れ

2025年度の最後の定例活動日です。県民の森の管理事務所に向かう道の途中には、マメザクラが小さな花を下向きに咲かせているのが見え、春を感じさせます。今回は、早春の花を見に千葉県森林インストラクター会から4名の方が体験参加され、にぎやかな活動となりました。

活動としては、最初に全員で3か月に一度行っているニホンジカ生息状況調査を行い、そのあとはグループに分かれて植物観察、危険木伐採、センサーカメラのデータ回収を行いました。

また、坂本さんからは畑で採れた菜花の差し入れがあり、春の味覚も楽しませていただきました。ごちそうさまでした。

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、片野、坂本、福島の会員6名と、体験参加の坂本さんご夫妻、佐々木さん、長嶺さんの合わせて10名でした。（福島）



長嶺さん、集合写真に入っていないでごめんなさい

○ニホンジカ生息状況調査

豊英島では、ニホンジカの生息状況を把握するために3か月に1回調査を実施しています。調査方法は、島内を手分けして踏査し、発見したニホンジカを記録するというものです。

今回は体験参加の4名の方にもお手伝いいただき、いつもの7コースに別れて島内を一斉に踏査してニホンジカを探しました。調査時間は10:30から約30分。結果は、ニホンジカ、キョンなどの姿、声、足音の確認はありませんでした。その他の記録として、4コースの秋元さんが入り江近くで動物の死体を確認しました。調査終了後に数人で確認に行きましたが、死体の損傷が激しく、タヌキかもしれないというところまでで確定はできませんでした。（福島）



島の入り口で調査コースを分担

○早春の植物を探索

体験参加の方を案内して、島内の早春の植物を探索しました。最初に行ったのは、湖岸の水面ぎりぎりに咲いているスハマソウです。今年もいつもの場所に白い花を咲かせていました。スハマソウは、時々薄いピンク色の花を咲かせますが、ここで見る花はほとんどが白です。

シカの調査が終わったあと、次はコショウノキを見に行きました。先月はまだ蕾でしたが、予想どおり白い花を花束のように咲かせ、沈丁花に似た良い香りを周囲に漂わせていました。最初に島でコショウノキを発見した時は、シカの食害を受けないようネットで囲んで保護していましたが、シカはコショウノキを好まないようで、最近はずしずつ増えてきているようです。花を見るにはちょうど良いタイミングで、ご案内したみなさんに喜んでいただくことができました。ここでは、同じジンチョウゲの仲間のオニシバリも観察しました。

コショウノキを見た後は、4コースで見つかった小動物の死体を確認し、次はヒメフタバランを探して北西側の岬の方向を目指しました。尾根への急斜面を登って植栽したヒメコマツを観察したあと、今度は尾根を下って

崖下の北斜面へ。アップダウンの激しいコースを抜けてヒメフタバランの自生地に着きました。

シカの調査の時にもヒメフタバランの葉は確認していましたが、花は確認できていなかったため、今度は時間をかけて丁寧に確認していきます。しばらく探しましたが…今回は残念ながら花を見つけることはできませんでした。昨年はこの時期に花を確認できたので、もしかすると今年は花を着けないのかもかもしれません。昨年より個体数も少なく、昨年の夏の激しい乾燥が影響しているのかもしれない。

崖下の北斜面からの帰り道では、崖の途中に辛うじて残っているヒカゲツツジを観察し、尾根に登って広場の方に向かいました。広場に向かう途中では、まだ姿は見えませんが、昨年花を咲かせていたユウシュンランの自生地も見いただきました。是非とも、花が咲いている時期にまたおいでください。お待ちしております。(福島)



湖岸のスハマソウを観察



スハマソウ



コショウノキを観察



尾根を下って崖下へ



崖下からヒカゲツツジを観察



ヒカゲツツジ



ジンショウゲの仲間のオニシバリ



ヤブツバキ

〇森がさまざまな生きものを育む場であることを実感

この度は、豊英島「千年の森」のご案内をありがとうございました。午前中のシカの頭数調査では、実際に森を歩きながら、現地ならではの取り組みを体験させていただき、とても学びの多い時間となりました。道中では、コショウノキやシャシャンボなど、西側に分布の中心がある樹木をしっかりと観察でき、ただ歩くだけでは気づけない奥深さを知ることができました。トビの巣も間近に見せていただき、森がさまざまな生きものを育む場であることを実感しました。

午後の花散策では、道なき道を進むようなコースで、崖や急な斜面もありましたが、案内とリードのおかげで不安なく歩くことができました。危険な場所では一人一人の様子に目を配りながら、安全に配慮して導いてくださったことに、心から感謝しています。おかげさまで、ケガもなく、最後まで安心して散策を楽しむことができました。

楽しみにしていたフタバランは花を見ることはできませんでしたが、葉を確認でき、次の季節への楽しみが一つ増えたように感じました。また、スハマソウの可憐な花に出会えたことも心に残っています。花だけでなく、樹木についてもていねいに説明していただき、森全体が前よりも身近に感じられるようになりました。

今回の散策は、とても充実した時間であり、無事に終えられたのは、案内してくださった皆さまのご配慮と確かなリードのおかげです。この場をお借りして、あらためて感謝申し上げます。素晴らしい森の時間を、本当にありがとうございました。(佐々木朋子さま)



アセビ

○豊英島を訪ねて

3月15日、春の光あふれる豊英島の「千年の森」を訪ねました。普段は施錠された橋を渡ると、豊英湖の周囲は砂泥互層の地層が美しい絶壁に囲まれ、この島はまさに秘境、アドベンチャーワールドです。ワクワクする気持ちそのままに、シカの調査に参加させていただき、そのあとは痩せ尾根を渡り、崖を上り下りして、島中を巡り森の動植物を観察しました。

スハマソウ、オニシバリ、ヒガンナムシグサ、マメザクラ、ウグイスカグラ、ヤブツバキやクロモジなど春の花がさまざまに迎えてくれました。どこからともなく？採集してきてくださった巨大なシイタケにもびっくり。何より嬉しかったのは満開のコショウノキの花です。純白の花が周囲に芳香を漂わせていました。



クロモジ

島の中には、スタジイ、アラカシやウラジロガシなどの照葉樹、コナラやシデなどの落葉樹、そして氷河期の残存種といわれるモミヤツガなど、太古からの自然に人の営みの跡が加わった、多様な森が見られます。ヒメコマツの植栽試験地や、コナラ伐採後の変化の観察調査地も案内していただきました。

小さな島の多様な森とそこに生きる、植物、動物、菌類の多様性に驚き、それを守る「ちば千年の森をつくる会」の皆さまの活動に頭が下がりました。案内していただきました、伊藤様、福島様、「ちば千年の森をつくる会」の皆さま、本当にありがとうございました。(坂本玲子さま)



豊英湖



豊英島



スハマソウ



コショウノキ

○危険木伐採作業を実施しました

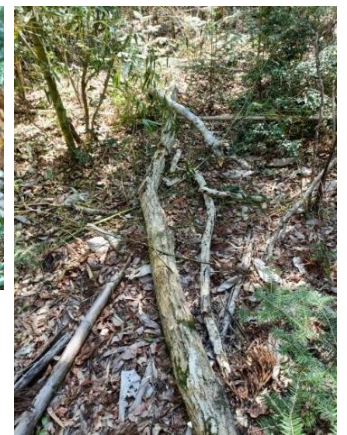
ニホンジカ生息状況調査を終えた後、森の安全を守るため、伊藤さん、鶴澤さん、私の3名でナラ枯れによる危険木の伐採作業を行いました。現在チェーンソーの修行中ということもあり、ベテランの伊藤さんからご指導を仰ぎながら、計3本の伐採を行いました。

作業中、特に1本の木で肝を冷やす場面がありました。外見では分かりにくいものの内部の腐朽が進んでおり、伐倒のコントロールに不可欠な「ツル」が効かない状態だったのです。



内部が腐朽した木

私がまだ切り進めようとしていたところ、伊藤さんから「ほうっ」と声が飛びました。自分では気づかぬうちに木が倒れ始めており、さらに倒れる途中で上部が空中で崩れ落ちてきたのです。改めて、予測が難しいナラ枯れ枯死木の危険性を肌身で感じました。



崩れ落ちた木

その後も、伊藤さんのもとで「突っ込み切り」や、倒れる方向の細かな調整方法を教わり、非常に学びの多い時間となりました。緊張で作業後は全身汗びしょりになりましたが、現場での経験は何物にも代えがたい貴重なものです。今回の教訓を糧に、さらに技術を磨き、安全に「千年の森」の整備に貢献していきたいと考えています。(片野)

○春の光の中で

ニホンジカ生息状況調査のコース4 沿いに小型動物の死骸がありました。大きく損傷した死骸は頭部から腰までの長さが30 cmほどで、内臓はそっくり無くなり、残ったのは骨と体毛の付いた皮だけのようです。また、頭部の毛と尻尾の先の毛はすっかり無くなっていました。尻尾は手のひらサイズ程に見えました。体毛の色は林内では黒褐色のように見えたが、写真では白い毛もあるよう見えます。ハエが腹部の赤みを帯びた付近を中心に羽音を立てて群がっていました。死後の時間はさほど経過していない様子です。イタチかニホンリスぐらいの大きさだと思うのですが種についてはわかりません。

本日来訪の森林インストラクター会の方々を案内している福島さんのグループに同行し、島内をめぐる植物の観察をしました。後からついていただけですがいい刺激をいただきました。スハマソウ、コショウノキ、オニシバリ、ウグイスカグラ、カンアオイ、アセビ等を観察しました。昨年、荒天により島に入れなかった私は、ヒメフタバランの花が見られるか期待していましたが、残念ながら花や蕾はありませんでした。昨年は3月16日に開花していたと『千年の森便り』255号に記述があります。天候の影響でしょうか、成長が遅れているのかもしれない。来年を楽しみにします。

コナラ伐採地の草本類区域はきれいに整備されています。伐採地の周囲は落葉樹が多く陰となる植物が少ないため、いっぱい明るさで眩しいくらいの日差しが射しこんでいました。次年度の活動で予定している選抜伐採木に付けたオレンジのテープが目立っていました。乾いた落ち葉はガシャ、ガシャと歩くたびに心地よい音を発します。春の到来を待っていたかのようにシュンランとマメザクラが咲き始め、この伐採地の彩りとなりました。(秋元)



小型動物の死骸



スハマソウ



コショウノキ



オニシバリ



ウグイスカグラ



カンアオイ



ヒメフタバラン



シュンラン



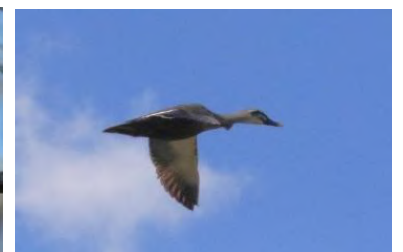
マメザクラ



ナガバノコウヤボウキ



ヒヨドリ



カルガモ

〇ヒガンマムシグサ

体験参加の皆さんは千年広場近くに咲くヒガンマムシグサを目ざとく見つけて夢中で撮影していました。北総には見られない種類ですから無理もない事です。

この花を見慣れているベテラン会員は「もっと大きい株が一杯あるから、そんな貧弱な物を写さなくてもいいのに」と余裕の態度でした。私も同感でその場をパスしましたが、お昼近くになって何時もの場所で見ていないのに気付きました。見落としかなと思って再度探しても見当たりません。昨年夏の猛暑と雨不足の影響で枯死したのでしょうか？それとも動物の食害でしょうか？参考までに 2018 年撮影の古い写真には一画面だけで 10 本以上が写っていました。(坂本)



ヒガンマムシグサ 2018 年 3 月 18 日豊英島

〇次回の定例活動は 4 月 19 日（日）です。

2026 年度最初の活動日です。定時総会を予定していますのでご参加をよろしくお願いいたします。

定時総会の出欠確認等については後日メールを送りますが、参加できない方は、委任状の提出をお願いします。参加の際は、ダニ対策とヘルメット着用を忘れずに。

体験参加大歓迎です！

集合場所は、房総クロスヴィレッジの駐車場です。

<https://maps.app.goo.gl/hFKVg4mXncQZJuyU6>

(35.218558228172604, 140.02542152712238)

以前の集合場所から豊英島方向に進み国道から左に入ったところです。

集合は 9:30 です。お間違いのないように！



房総クロスヴィレッジ（旧三島小学校）

セブン-イレブン記念財団

この活動は一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受けて実施しています